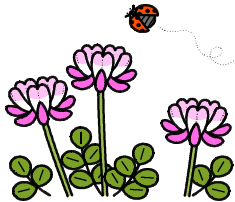




江南小だより

八戸市立江南小学校 学校だより
令和2年 8月 25日 発行
通算 第511号

教育目標 強い子になろう



置かれた場所で咲きなさい

校長 花生 典幸

夏休み明けの8月20日(木)の朝、宿題を両手にかかえて子どもたちが次々と登校してきました。一人一人の明るい笑顔に接し、それぞれに楽しい充実した休みを送ることができたようすがうかがえ、うれしく思いました。

この休み中、子どもたちに大きな事故・けが等がなく、全員元気に無事に過ごせたことを、たいへんありがたく思っています。保護者・地域のみなさまのご指導やご支援によるものと、心より感謝申し上げます。



「置かれた場所で咲きなさい」……みなさんの中には、この言葉をご存知の方もたくさんいらっしゃるでしょう。

岡山県にあるキリスト教系のノートルダム清心女子大学で学長をされていた渡辺和子さんが、その著書のタイトルに掲げた言葉です。

若くして(36歳!)学長職に就いた渡辺さんは、岡山という見知らぬ土地に赴任した当初、仕事からくる重圧と自分の無力さにさいなまれ、自信をなくし、くじけそうになる毎日を送っていたそうです。

ある日、それを見かねた一人の宣教師が一篇の詩を彼女に送ってくださり、その中にこの言葉があったそうです。渡辺さんは、この言葉を足がかりにして、自分自身が変わることができたと言います。

「置かれた場所に不平不満をもち、他人の出方しだいで幸せになったり、不幸せになったりしては、わたしは環境の奴隷でしかない。人間と生まれたからには、どんなところに置かれても、そこで環境の主人となり、自分の花を咲かせよう」

置かれたところで咲く、ということは、しかたないから諦めるというネガティブな意味ではありません。むしろ、どんなに困難な状況、自分の思い通りにならない場面にあっても、自分らしさを失わずに輝けるためにベストを尽くしましょう、と前向き(ポジティブ)なメッセージを伝えているのだとわたしは思います。渡辺さんは、次のように続けます。

「結婚しても、就職しても、子育てしても、“こんなはずじゃなかった”と思うことが次から次に出てきます。そんな時にも、その状況の中で「咲く」努力をしてほしいのです。……どうしても咲けない時もあります。雨風が強い時、日照り続きで咲けない日、そんな時には無理して咲かなくてもいい。その代わりに、根を下へ下へと降ろして、根を張るのです。次に咲く花がより大きく、美しいものとなるために」

人を励まし前を向かせる力強いメッセージですね(わたしは特に、最後の二文が好きです)。

本校の子どもたちも、5月から7月までの三カ月間、辛いことにもぐっと耐え(毎日のマスクを欠かさないことも含め)、我慢や努力を重ね、“いつか大きく美しい花を咲かせるために下へ下へと根を伸ばしながら”よくがんばってきました。

「運動会」や「修学旅行」など、時期を移動させた大事な行事が目白押しのこれからの日々、子どもたち一人一人の花が立派に咲くように、わたしたちもしっかり支え、指導していきたいと思っています。ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。